

---

## 序章．調査の趣旨



## 1. 調査の視点

- ・延焼遮断帯を作り、市街地全体の延焼危険性を低減させるため、幹線道路等沿道において不燃化を促進するという考え方にに基づき、避難路（将来）沿道、避難地周辺や、生活道路沿道での不燃化促進を進めてきた。結果を見ると、こうした沿道においても元々建替えが比較的容易な条件の宅地での不燃化促進効果が上がっており、建替え条件が整っていない建築物が数多くある北部の木造密集市街地では、不燃化促進の効果を必ずしも十分には挙げることはできない状況となっている。この隘路を打開するためには、建築行政を超え、より幅広い立場にたって、不燃化促進事業が本来目指していた市街地の防災性能の強化をどう実現するか、検討をする必要がある。
- ・このため、第1章では、市街地の防災性能をシミュレーションにより評価することによって、不燃化だけでなく、耐震性強化、避難路確保、災害救助活動のしやすさを評価し、区民にとって「こうすればまちが安全になる」という、効果が見える施策の検討と提案を行った。
- ・また、第2章では第1章の成果を踏まえつつ、下図に示すように、墨田区が新たな防災対策として打ち出した木造建物の耐震化と不燃化促進事業をどう連携展開するか、検討を行った。

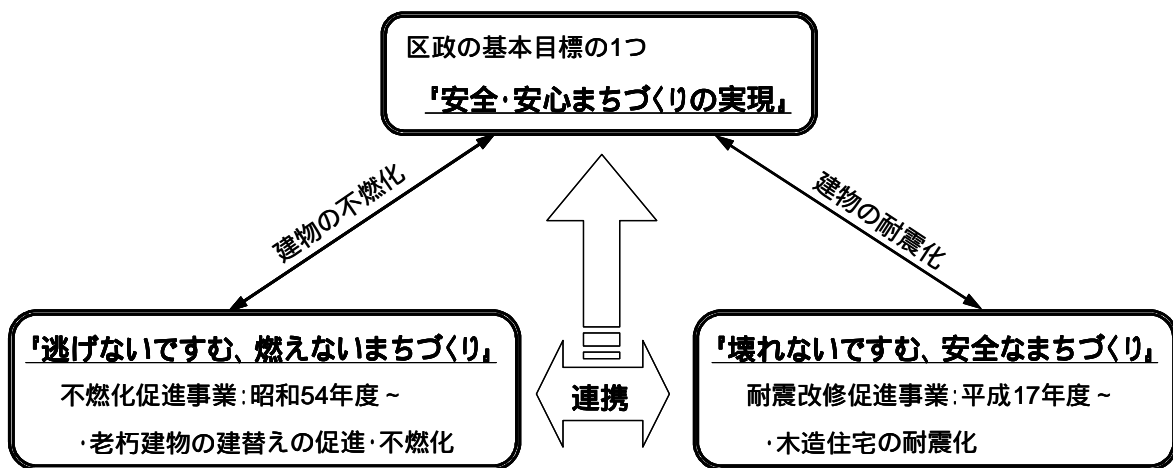


図 序-1-1 不燃化促進事業の見直しの方向

- ・なお、本調査は、並行して検討が進められている墨田区都市計画マスタープランの改定作業との連携も視野に入れ、新タワー周辺市街地における防災まちづくりにもついても一部検討を行った。（第2章3項参照）